

旧四郷村役場、新装なる!



▲工事が完了した旧四郷村役場（四郷郷土資料館）

西日野町に所在する四日市市指定有形文化財（建造物）「旧四日市市役所四郷出張所（四郷村役場）」の耐震等工事が完了し、新装なった姿を披露している。 Ⅱ 関連②③④面

市指定文化財 旧四郷村役場 整備工事通信

第肆號

令和5年5月23日
(2023)
火曜日

令和の大修理、完了

築一〇〇年を越えた旧四郷村役場（四郷郷土資料館）において、令和三年（二〇二一）十月から始まった耐震補強・修理工事が今年三月二八日に完了した。

工事は、文化財建造物としての専門的な指導を柳澤宏江氏（市文化財保護審議会委員）から受け、現場の施工監理は津市の株式会社継承社が担った。元請は四日市市相生町に本社を置く株式会社大建設で、工事費は約二億七千八百万円（消費税別）。
今後、いったん搬出した展示資料を活用するとともに、新たな企画の展示も加えた資料館として、令和五年度中にオープンする予定。

今回の工事の概要は以下の通り。

耐震補強

耐震補強を主とするため、建築以来の大工事となった。屋根、壁、基礎などに耐震性を高めるためのさまざまな工法が実施された（基礎工事及び外壁については『整備工事通信 第参号』を参照）。

屋根

本建物の主屋棟と袖棟は瓦葺屋根で土葺きとなっていた。軽量化を図るため土を除去し、パネルや防水シートを張り、鬼瓦も含めて瓦を一新した。

小屋組は、主屋棟は和小屋組で袖棟は洋小屋組という特徴がある。組み方に合わせて



▲和組の新材補強と水平プレス



▲瓦の葺き替え

適所に雲筋違を追加し、全体に水平プレスで補強した。

きょうの紙面

工事の概要

- 耐震補強工事 1
- 修理工事 2
- 復原工事 3
- 新たな設備 3
- ◇工事アレコレ 4
- ◇トピック 4
- ヘンなもの発見 4



発行 四日市市
シティプロモーション部文化課
〒510-8601 四日市市諏訪町1番5号
☎ 059-354-8240
bunka@city.yokkaichi.mie.jp
HP で検索

貴重な文化財建造物を未来へ継承する・・・

なお、塔屋及び主屋棟の千鳥破風の屋根は、工事前は銅板葺きで緑青により緑色を呈していたが、当初の屋根材が天然スレートであったことが分かっていったため、復元的な色調となるよう黒色のガルバリウム鋼板葺きとした。

内壁

建物の内壁（間仕切壁）はほぼ建築当初のもので、

工事前には「保存すべき箇所」と位置付けた。ただし耐震性の確保のため新たに筋違を設けたり、工事上どうしても必要な所は、一部現状変更を行った。



▲旧事務室西壁内の筋違

内壁の最下部の中木が、床板に掘られた溝にはめ込まれていることが工事中に判明した。基礎や二階床下の工事のために床板をいったん外す必要があったため、止むを得ず中木を含めた内壁の下部を解体した。

また、外壁の室内側に筋違を追加して補強せざるを得ない箇所では、筋違を覆って見かけ上壁の厚みが増しているように施工した。天井との接合部や廻り縁にも同じ装飾を施して自然な仕上がりとなっている。

レベル

工事前の調査により、車寄せ付近が約10cm沈んでいる

ことが明らかになっていった。揚屋を行って土台の傷みを確認し部材を更新するとともに、土台の高さを一定に戻した。さらに、柱の高さの不均等を是正するため、それぞれに必要な高さの新材を補った。

車寄せの三本柱には、高さを調節した痕跡が残る。



▲柱の高さを調節する新材

修理

外壁

建物の外壁は、平成初期の工事により大部分が更新

されていた。そのため今回、壁内の筋違を入れ替えるとともに腐朽した材の取り換えを行った。また、透湿防水シートなど現代の技術を用いて施工することで、腐朽の最大の要因であった雨水の処理（雨仕舞）を実施した。

特に建具（上下窓）回りは、その構造から雨水に弱い箇所

車寄せ

正面玄関に構える車寄せは、本建物の外観上大きな

印象を与えるものとなっている。三本柱の石造りの基壇以外は平成初期の復原である。屋根の上の手摺りは腐朽が著しく、全て作り直した。本来バルコニーだったと思われる

であったため、詳細に検討し緻密な工法で最大限の雨仕舞を施した。



▲車寄せ手摺りの修理

るが、現在立ち入りはできない。また、玄関が石段を含めて約10cm高くなったことから、土間に傾斜をもたせて石段の高さと調整した。なお、土間の基礎は、車重に耐えられるよう、配筋してコンクリートを打った。

内装

一階の漆喰壁は白のペンキ塗装がされていたため、

今回、漆喰風塗料で仕上げた。建具を含めた木部については、二階に残されていた古い色調を参考に、緑系色調に統一した。

館内の床材全て建築当初材とみられ、再利用を原則としたことから、一枚一枚に番付けを行い、原位置を記録した。打ち付けられていた釘を板下面で切って板を取り外した後、直径1cmほど周囲の木材ごと釘を抜き取り、その穴を新材で埋めた。床板全てに毎日二〜三人の職人がその作業に取り掛かり、数ヶ月を要したという。



▲床板の補修

復原

外装

外壁、特に一階の目透横板張りと二階の付け柱・付け梁及び建具の木部の色調を決定するにあたっては、正面千鳥破風の木部の塗装調査に基づき、色見本を作成し柳澤氏の指導の下、市及び四郷郷土資料保存会が協同して検討を行った。

塗装調査では、当初の色調として緑系がみられ、その上に濃ピンク系が確認された。戦時中は目立つ色を避けたことが想定され、濃ピンク系は戦後の可能性が高いと考えら



▲外壁の塗装色

窓口

旧事務室は、当時の最先端の様式を導入しており、住民に対応する窓口がカウンター形式という洋風であった。住民は、塔屋の一階から入り、土足のまま土間で用件を済ませることができた。

一階の横板は比較的薄めの色調とみられたことから、戦後しばらくこのピンク系の組合せが続いたとみてこの塗装色を決定した。



▲復原したカウンター

カウンターは東向きと北向きのL字形に配置されているが、東向きは作り変えられたカウンターであった。今回、北向きを参考に復原した。また、北向きカウンター及び下部の腰板も、塗装し直し当時の姿に戻した。

新設

装置

大規模改修工事ということもあり、利用者や管理者が安心・安全に利用できるよう、最低限必要な設備を設置した（「建築基準法の適用除外」については「整備工事通信 第3号」を参照）。

北側駐車場から車椅子で直接入館できるように、スロープを設置した。東北隅の建具（扉）を利用し、外にある建築当初の石段を損ねないように施工した。



▲外スロープの基礎

階段を上がった二階のホールには、ホールから落ちないように当初の手摺があるが、規定の高さより低かったため、極力既存の手摺を傷めないよう工夫して、新たな手摺を設置した。



▲新設の手摺

建物に付随する資料を展示物とするために、階段に残されているリノリウムを保護する造作として、蹴込みにカバーを取り付けた。また、上下窓の仕組みを理解してもらうため、建具の木枠内に収納されている、ガラス窓と釣り合う重りを見ることができるよう、木枠の一部をアクリルに変え、可視化した。

設備

建物が木造であることから、特に火災等防災の対策にも取り組んでいる。

屋外に十トン貯水できる防火水槽とホースを設置したほか、炎を感知するセンサーや火災報知機、消火器、非常灯、避難はしごなども備えた。なお、非常時にこれらをきちんと使用できるように、日頃の訓練も行う必要がある。

人の滞留・滞在が想定される部屋には空調を設置した。照明は、既存の器具を利用しつつ、天井の漆喰や装飾に配慮した器具を使用した。



▲旧議場の照明と空調

・ 継承できるものはそのままの姿で残す

工事アレコレ

今回、文化財建造物の大規模な修理工事ということ、普段ではあまり行われない工法を用いたり、解体することによって分かったこと、初めて明らかになったことなどがあつた。

揚屋の秘密

工事の見せ場となった揚屋は、令和四年三月中旬から約三ヶ月に及んだ。木造部分の建屋を約1m持ち上げた。実は揚屋を担当したのは豊橋市の揚屋専門という業者で、驚かされたのは、建物の柱などに括り付けジャッキで持ち上げられる鉄骨が鉄道の

塔屋の秘密

三階建ての塔屋は、旧四郷村役場の最大の特徴といえるものであるが、実は設計では二階建てだったのでは、という疑惑が一部で浮上している。解体して外壁内の構造材が



▲塔屋2階構造

露わになったところ、実際には中央に一つしかない二階の窓の構造が、今の三階と同じ三連になっており、また一部では、いったん二階で構造が区切られているところがみられた。ひよっとしたら、よりいい眺めを求めて、伝七翁が工事中に「もっと高く！」と要望したのかも…。

編集後記

一年半に渡った工事がついに終わりました。いろいろな発見があり、たいへん勉強になりました。旧四郷村役場を楽しむポイントがたくさん増えました。この第肆號ではお伝えしきれなかったこともありませう。さまざまな機会でお伝えしてまいります。これから展示のリニューアル作業を行い、建物の魅力とともに近代産業発展の歴史や地域の特色をお伝えできるよう、地元の皆さんと協力して進めていきます。しばらくお待ちください。(5)

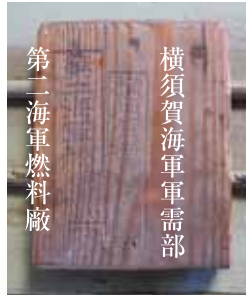
トピック

工事中発見したへん?なもの

工事中に見つかったあんなもの、こんなものを綴ります。

床板の補修板は海軍燃料廠の通行証！？

ある部屋の床板を確認中、穴埋めに使われた長方形の板が、なんと戦時中、四日市にあった第二海軍燃料廠の通門鑑（通行証）だったことが判明しました。西日野に居住していた方のもので、有効期間は昭和20年度でした。結構貴重なものではないかと思うのですが、どういう経緯でこんなところに使うことになったのか、想像すると面白いですね。



隙間から転居届、発見

旧事務室のカウンターの隙間から、四日市市に転居してきた方が郵便局宛に出した転居届が50年以上のときを経て見つかりました。旧住所に届いた郵便物を新住所に送ることができたはずですが、なぜ郵便局宛の届が役場にあったのでしょうか？ 謎ですね。

今後イベントを計画しています

大規模工事が完了しました。工事中は、多大なご理解とさまざまにご支援をいただき、ありがとうございました。資料館のリニューアルオープンまで、見学会や講演会など、PRイベントを企画します。HP や広報などで詳細をご確認ください。

◎旧四郷村役場（四郷郷土資料館）へは・・・

- 四日市あすなろう鉄道
 - あすなろう四日市駅より八王子線
 - 終点「西日野駅」下車 徒歩 15分
- 三交バス
 - 近鉄四日市駅南乗り場より
 - 高花平、小山田病院、宮妻口、椿大神社行き
 - 「四郷小学校前」下車 徒歩 1分
 - (四日市駅より 15分)

休館中



資料館は展示作業中のため休館します。
屋外トイレは使用できます。